

**意見交換の概要**  
**(平成 30 年 8 月 3 日(金)・松山市青少年センター)**

**1. 高校生に向けた広報活動について**

今、知事から、防災の話だとか子育て支援の活動だとかいろいろな話を聞いてとても素敵な活動だなと思ったが、それを僕は今まで知らなかった。知らないことはとてもたくさんあって、例えばこのお茶1つにしても、今日初めてこういう愛媛の特選茶があることを知った。

高校生は、日中は学校にいて夜まで部活があって帰るのが遅くて、テレビのニュースを見たりだとかいう時間もなかなかないが、県の活動を知らない高校生はたくさんいると思う。現在の日本でも若者の政治離れが問題となっていて、高校生のうちから民主政治の学校と言われる地方自治に関わることに、それについて深く知ることとはとても大事ではないかと思っている。

そこで、高校生に向けた広報活動についてどのようにお考えかお伺いしたい。

**【知事】**

本当に情報発信というのは難しいテーマで、例えば紙媒体もある、テレビ媒体もある、今風でいえばネット媒体もある。いろいろなチャンネルがあるんですね。可能な限り情報発信というのは、例えば県の広報紙は新聞折り込みで各戸に配布するんだけど、見る見ないは受け手の自由だから、出したからといってそれで情報発信が終わっているわけではなくて、それでも読んでいない人も多くいるという前提で、じゃあ紙媒体はこういうふう、テレビ媒体はこういうふう、ネットではこういうふう。全部のチャンネルで常に追い求めるという、飽くなき執念が大事だと思います。

ただ、今多分比率でいうと、我々の世代だとテレビ、新聞が情報ソースの主たる道だったんですね。だいたいそこに乗っかればほとんど行きわたる時代だったんですけども、今は恐らく、君たちの世代では今話にもあったようにテレビのニュースを見る時間もなかなかない。新聞はあるの。

**(参加者)**

僕は読みません。

**【知事】**

読まないか。新聞はね、だまされたと思って読んだほうがいい。

というのはなぜかという、ネットというのは結構簡単にいろいろなニュースが入ってくるんだけど、ネットというのはあらゆる情報が氾濫している。そこにはいい情報もあれば悪い情報もごった煮に氾濫していて、そのいい悪いの取舍選択というのは誰もやっていない。中には意図的にミスリードを画策して操作を行うような流し方をするようなグループもいるから。多分、テレビなんかだとちゃんと公平な委員会があって、この報道はなんかおかしいんじゃないかとか、偏っているんじゃないかとかフィルターがかかるんじゃないかと。新聞もそういうふうなシステムが働いているので、多少はいろいろな主張の違いはあれども、めちゃくちゃなことではない。その情報が整理されているということであれば、やはりネットもどんどん活用したらいいんだけど、逆にそこを持っていけばそのフィルターを自分の中でしまいこんでおかしな情報を排除できるようになるから、その力を養うためにも新聞というのはいいのではないかなと。

それからもう1つは、活字というのは非常に僕はいいい力になるのではないかなと思うんだけど、例えば、的確かどうか分からないけど、読書と漫画って全然違うと思うのは、漫画というのは僕も読むけれども、楽しい、非常にリラックスできる。場面の展開を目で追えるからストーリーの展開を感覚的に捉えながら進んでいけるけれども、読書の場合は活字を見ながらその文字を自分の中に取り入れて、さらにそれを自分の中でシーンとして描き出そうとする積み重ねをして

いくから、確実に思考を深めるトレーニングになるはず。誰しもはできないかもしれないけど。だから活字というのは、新聞を含めて絶対に思考力を深めていくトレーニングになると思うので、時間があればぜひ新聞を読んでいただければと思います。今、ネットでも見れるから。

そういうふうなことでいうと、皆さんの世代というのは、どちらかというともネットから情報を得る世代になってきているので、ネットはさっき言ったように受け手も自由に受け取れる一方で、情報の出し手もノーチェックだからとてつもない情報が氾濫しているのです。その中で我々は、受け手側がネットを活用している世代がどんどん増えているということ踏まえて、じゃあ、県としてどう出していくのかということは今、研究を積み重ねている。もちろんやっているだけでも、このままどんどん、どんどん。例えば、今後はAIの活用で的確に届けられないかとか。そういうテクニカルな問題は別として、ネットでの情報発信というのは、特に今の若い世代には絶対にアプローチの道筋としてやらなければいけないなと思っています。

## 2. 観光地の熱中症対策について

熱中症対策について、最近、知事も先ほどお話しされたとおり、日本では猛暑に見舞われ、ここ松山でも気温が35度を超える日が多々あり、熱中症にかかってしまう人や脱水症状で倒れてしまう人もいらっしゃると思う。海外から訪問された方々からすると、熱中症対策を万全にしたとしても日本の今の気候が苦しいものとなっているかもしれない。

そこで、日の当たる観光地、例えば道後温泉付近や、松山城近くにスプリンクラーや、噴水など涼を取れる場所があれば、暑い日も快適に過ごせるのではないかと考えた。夏休みということもあり海外または県外から旅行者がたくさん訪れるが、そのような方々は観光地に足を踏み入れることが多いと思う。そのときに外でも涼が取れるところがあれば、よかったまた来ようと言ってくれる人が増えるのではないかと。まちづくりをする上で、熱中症対策についてどのようなお考えがあるか。

### 【知事】

すごい難しいんだけど、最近、霧のようななんというの、シャワーみたいなもの、ベタっとしない、ああいうものをお店の前に設置したりするところがふえていて、ああいうのは非常に有効だなと思うんだけど、ただ1つ考えないといけないのは、例えば松山市限定の話でいうと、それを全市でやってみようとしたときに、実は松山市は水が非常にないところなんです。ですから水そのものの問題。さっきも水というのは命ですから、大事なものということクリアして、この水のシャワーというのはできるのかなと思いますので、そこの思いもはせておかないといけないということを感じます。

それ以外だと、例えば日陰をつくるのか。これ、何かいい方法ないかね。

日々、観光客といえどそういった空間を丁寧に用意するというに尽きるんだと思うし、それから日々の生活でいえば、僕は運動部だったんだけど、昔のような考え方は指導者は絶対持ちやいけないと思う。水は飲むなとかね。根性でやりきれとかね。そういうことをやったら、この気温だったら死んでしまうと思う。それは昔の話だということを、指導者はしっかりと、運動に携わる人間は特に、気を付けないといけないなというのは、気候の変化があるからこそそう考えることがありますね。

やっぱり、前と明らかに変わってきているということを前提に、生活にしる、まちづくり、空間づくりにしる考えていかないといけないと思うけれども。ただ、一体大々的に何をすればいいかというのは、ちょっと今パッとはいふ浮かばないな。ぜひ、アイデアを考えてほしいね。

## 3. 安全のため自転車通学路にブルーラインを引くことについて

私も自転車で通学しているが、本校は中等教育学校なので小学校から入学したての中学1年生が自転車で通学する姿を見てヒヤッとすることがすごくある。学校の立地が中央卸売市場に近くて交通量も多く、特に裏門付近には分離した歩道もないので自転車道の整備をお願いしたい。用地の買収等を考えると長い時間がかかるので、松山市内のようにブルーのラインを引いたりとかすれば通行する自動車も自転車にもっと気を付けてくれるようになるのではないかと思う。校内であれば学校で決めてペイントができるが、公道ではそうはいかないのでご検討をよろしくをお願いしたい。

**【知事】**

まずは現場に、聞いてみないと。

**(司会)**

来てないです。

**【知事】**

来てないんだ。学校の後ろの道というのはどこの道か誰かわからない？実は県の管理している道なのか、松山市が管理している道なのか、私道なのか、それによって全然やり方が変わってくるので。

**(参加者)**

多分、県道だと思います。

**【知事】**

県道。県道だそうです。

実はブルーラインというのは、ちょっと同じことはできないと思うんですけど。ブルーラインというのは何の意図でやったかというね、さっき言ったように4年前に戦略的に自転車振興をやりようと思ったので、何と言うか、根本の考え方から吟味したんですよ。単に自転車を活用して人を呼んで元気にしようというのでは駄目だと。そうじゃなくて自転車ってそもそもどういふものなのかというところから考えよう。

日本では自転車というのは通勤と通学と買い物に使う移動手段としてみんなだいたい受け止めている。でも、今、アジアとか世界というのは全く違った捉え方をし始めていて、自転車というのは使い方によっては人々に3つのものをプレゼントしてくれるツールになる。1つは健康。もう1つはあそこまで行けたという満足感もそうなんだけど、生きがい。それからサイクリングを通じて出会っていく友情。こういうものをプレゼントしてくれるツールになる。そういう使い方を我々は自転車新文化と名付けた。実は愛媛県庁に4年前に自転車新文化推進室というのをつくった。そこからスタートしてまずは、自転車の魅力をみんなで体感しようというところから始めて、そのうちに延長の一線としていいコースがいっぱいあるじゃないと。ここから先は逆の発想で、例えば南予に行くとしたら。南予に行く道路は整備されているけれども人口が少ない、車が少ない、過疎化が問題になっている。逆に考えれば、道路はできている、車は少ない、自転車には最高だとなる。そういう発想で切り替えて活用すれば、サイクリングというラインがみえてくる。

さあ、愛媛県全体を見てどうなのか。しまなみ海道の魅力というのは分かっていたけど、ほかはどうなのかということで専門家の方に調査してもらいました。それで、今、マルゴト自転車道の話を出してくれたけど、あのサイトには11の本格コースと17のファミリーコースを専門家が走ってみて推薦するコースが全部出ているんです。ここにブルーラインを敷くというのがあのラインですね。ブルーラインを敷いたところは確かにすごい効果があって、トラックの運転手さんや車の運転手さんにもブルーのラインが見えるところは自転車が多いから気を付けなきゃというメッセージになる。かつ、自転車をやる人からすれば、ブルーのラインに沿って走っていけば

道に迷うことなく観光スポット等々にたどり着けるという道標になっている。そういうのが実はブルーラインに込められたあれなので、やるとしたら別の色にしないと西中等教育学校のところにサイクリストがわんさか通っています、みたいになると思うので。

今言った自転車の専用道ということになるとちょっと時間がかかるかもしれないので、例えば通学路の危ないところについてのメッセージとしての道標というのは検討できるかなど。ちょっと僕も専門家ではないので、法律の問題があるので何とも言えないんだけど、アイデアとしては面白いのでちょっと持ち帰らせてもらいたいと思います。

#### 《補足説明》〔土木部〕

平成 25 年に松山市自転車ネットワーク計画を策定し、各道路管理者が該当路線について、自転車道、自転車専用通行帯及び車道混在（矢羽根等を設置）の整備に取り組んでいるところであり、松山市においては、中心部から内環状線までのエリアを優先し、自転車走行環境整備を行うこととしております。

今回、要望のあった県道和气衣山線及び裏門から県道交差点までの市道については、今後の計画見直し時に計画区域に含める予定ですが、通学時には多くの自転車と自動車が輻湊し、危険な状況であるため、市、警察とも協議を行った結果、今年度中に車道路面に「矢羽根」と「自転車ピクトグラム」を設置することとし、31 年 2 月上旬に設置が完了しました。

#### 4. 若者の就農促進に向けた政策及び七折小梅のPR方法について

私の祖父は 84 歳で砥部で七折小梅をつくっていて、私は休日お手伝いに行っている。七折地区でも高齢化で後継者不足や今回の災害でやめてしまう人も多いと思うが、私はできたら後を継いで梅づくりをしたいと思っている。しかし、不安もたくさんあり、若者が農業をするためにいろいろな政策をされているとのことだが、就農した若者がどのくらい定着して続けているのか。そして、全国的に梅と言えば和歌山南高梅で、皮が薄くて果肉も柔らかく糖度が高い七折小梅をぜひたくさんの人に知ってもらいたい、どうPRしたらいいのか教えてもらいたい。

#### 【知事】

ぜひ、農業。夢はあると僕は言い切れると思います。後ほどお伝えしたいと思います。

実は、農林水産業というのは、特に農業関係者というのはいろいろな人と出会ったけれども、共通したキャラクターというのが見い出せていて、それは収益が上がっているときでも、収益が上がっていませんと言わない。厳しいということはよく言われる。だから、みんなそのイメージを持ちちゃっている。でも、実際にかんきつ農家とかいろいろなところの人と出会うと、ものすごい収益上げている人たくさんいる。本当に。でも、言わない。だから、僕はそういう人たち、特に若い人たちには収益上げているなら上げていると言ってくれと。言ったら若者たちにもその状況が伝わると。そしたら生業として成り立つというのが分かって、そこで後継者も入ってくる。新参者が入ってくる。みんなそれを言わないで厳しい、厳しいって言うからきつともうからないんだろうと言って、壁ができて入って来ないで、後継者不足になっている現象が起こっているのではないですかということをよく話をする。

やっとそこに応じてくれる人がたくさん出てきまして、ここに“えひめ農林水産人”という冊子がありますが、その中から今も百何十人の方がいいよって。自分ちゃんとやってみようかっているから言ってあげると言って、私はこんな形で農業に入りました。こんな一日の生活をやっています。収入はこうです。全部書いてある。ほとんど若者たちです。やっぱり工夫次第で農業というのは十分やれる産業であるということは何となく記憶に留めておいていただきたいと思います。

もちろん、品種によってやり方も違って来るし、売り先も違って来るので、そこは勉強してい

く必要があると思います。例えば、久万高原町。山の奥にあります、あそこは昔からトマトが有名だったり、ピーマンが有名だったり。最近はお米も少量だけ出している。少量であるからこそ高く売れるというケースもあってね。たくさん売るんだっただこでも手に入るからって価値が下がって値段が下がってしまうというケースもあるので、その見極め方もすごい大事だと思います。

例えば、久万なんかでいくとピーマンは高原野菜という商品イメージが定着して、特に京都あたりに出すんですね。これは郷土料理に使えるから高値で取り引きされるので、これは最初僕も聞くまで知らなかったけど、一反、一反って分かるかな、田んぼの。一反で二百何十万上がるって言いますね。収益が。言わない、それを。トマトは300万以上。そういうところもいっぱいあるので、ぜひ農業には自信を持ってもらいたいと思います。

その中で七折小梅というのは、これまたすごい強気な商品なんです。普通は、例えば梅とかができる市場に出して、その市場で値段が決まってくんだけど、あそこの組合さんは、今年どうか分からないけど、3年前に行ったときは自分たちで売値は決めると言ってたから、で、買いたい人がたくさんいるから自分たちは今年はいくらじゃないと売らないよって言って商売しているというから、すごいビジネスをやっているんだなと感心したことがあるんです。今、小梅を使った七折小梅のゼリーをつくらたり加工品にも広めて、一生懸命砥部町頑張っていると思うのですが、その少数の価値というものを、そんな大々的にという産地はないと思うので、むしろそっちを狙っていったほうがいいのかと思います。

例えば、さっきお茶の話がありました、お茶産地。愛媛で言えば一番生産量が多いのは東予の新宮村というところですね。新宮村は村だから人口は少ないけど、新宮茶というすごい昔から高級なお茶をつくっているんです。そこがそのお茶を使って今から20年ほど前に新しい加工商品をつくりました。名を“霧の森大福”と言います。霧の森大福というのは、当時、その社長と出会って、これはすごいおいしかったので、紹介するから営業してみたらと。当時はそごうデパート。今は高島屋。松山の。そこへ紹介したら購買担当者が飛びついて、これはおいしいと取り扱いは始まった。それから松山のロープウェー街にアンテナショップを出した。今はネット販売やっている。全国で知る人ぞ知る商品になっています。ところが、絶対につくれれば売れるけど、生産量を増やさない。松山のアンテナショップは1日200個しか売らないんです。だから朝行ったら観光客がずらっと並んでいて、はい200個終わり。だから価値が生まれる。そのアンテナショップで200個しか売ってないからネットで入れると、今込み合っているんで、今だと5カ月待ち。注文ありがとうございます。納品は5カ月後です。でも、欲しくて欲しくてしょうがないという商品って全国に広がっちゃった。

そういうやり方もあるので、これから農業をもし目指されるなら、生産、つくる勉強も必要だし、業として考えていく時代だから、マーケティングとか、ビジネスという勉強もして。特にネットも使ったことも含めてやっていくと、つくるだけの農業からビジネスとしての農業というのが視野に入ってくるので、ぜひそんな近代的農業を目指してもらいたいと思います。

## 5. 高校周辺に通学に利用できるバス路線を通すことについて

今、学校のみんが抱えている問題は、学校の近くを通る公共交通機関がないということである。

中央高校ではほとんどの人が自転車通学生で、雨の日や怪我をしてしまったときには、親に送ってもらわないといけな。よほどの事情がない限り車で来てはいけなという学校のルールがあるが、やっぱり親御さんたちも心配だというのがあり、車が朝から混雑して、帰りも、完全下校の時間には自動車が溢れかえり、それにプラスして自転車通学生が多いので、車と自転車で入り混じって結構危ない状態が続くときがある。

なので、市駅からはなみずき通りを通過して中央前に来て、森松方面に行くループバスのようなものを中央前に通していただければ、そういう混雑もなくなるし、事故も起こりかねない状態であるので助かる。その辺のご検討をよろしくお願ひしたい。

#### 【知事】

県自体がバスの事業をやっているわけではないので、県がバスをとというのはすぐにできる話ではないんだけど、今の話を聞いて、まずやるべきことが1つあるかなと思ったのは、学校内で1回議論してみてもどうか。こういう現実があるんですと。

例えば生徒会と学校とで議論する場ってない。

#### （参加者）

あります。

#### 【知事】

あるでしょ。そういうので分析をするわけ。雨の日の分析ですと写真を撮って渋滞の状況の分析、通勤・通学にかかる時間とか。先生方に今、こういう現実なんですと。基本的に雨の日でも認められていないけれども、例えばそういうときはこういう工夫をして地区ごとに時間差を認めるとか、そういう検討はできないんでしょうかと。そういう提案をしてみるって面白いですよ。帰りのことについても時間をずらすことによって、今、一律になっているでしょ。10分刻みぐらいでずらしていくとかね。そういう工夫で改善の余地が現場においてできないかどうかというのを、学校自体、高校生自体が考えるのも面白いんじゃないかなと。僕だったら絶対やっちゃいますね。そういうアクションを起こしてみるのも1つの手かなと思います。

もう1つは、やっぱりなんだかんだ言ってもバスというのは民間、ここで言えば伊予鉄道さんがやっているから、例えば署名活動とかやって、これだけのニーズがありますと。ここにバス停をつくってくれたら我々が活用するんですというような、そういうアクションを起こしてみるのも、これもやれる手かなという気はするけどね。それでも駄目だったら、公共でなんとかしてくださいよ。いや、こんな現場で子どもたちがここまで一生懸命やってどうのこうのというのは、多分世に出るから、そうすると我々も動きやすいかなという気がするの、まずは現場で汗をかくというのがすごく楽しいし、またやることによって決して無意味ではないから、そこで成長のヒントが生まれるかもしれないし、そんなことにトライしてみてもどうかと思います。

## 6. 四国新幹線の実現可能性及び現状について

四国に新幹線を通す計画があると聞いたが、九州や北海道も新幹線が整備され四国だけが取り残されているように思う。移動手段としては飛行機のほうが移動時間が短くすむが、空港までの移動時間や手続きの煩雑さ、また費用のことなどを考えると新幹線の利便性を感じる。また、東京方面だけではなく中国地方や近畿地方、また四国内での移動も時間短縮となり大変便利に思う。しかし、新幹線の実現に向けては、費用や時間は相当かかると思う。

莫大な費用を投じることに賛否あると思うが、実現の可能性や、また今どのような状況なのかを教えてほしい。

#### 【知事】

新幹線というのは簡単にできる事業ではないですね。ただ、事業費だけがポンと出てくることになるんですよ。何千億円とか、1兆何千億。でもこれは単年度で処理する話ではなくて、事業収入で返済も考えながら30年、40年かけて返済していくので、問題はむしろ事業費のトータル費用ではなくて、毎年の返済が無理のない範囲なのかどうかというコスト計算。収入とのバランス。専門的にいうとB/Cというけれども、費用対効果ですよ。そこが成り立つ事業かどうか

ということを分析をしっかりとすることが大事だと思います。

一応、新幹線は専門家によって分析した結果、岡山から瀬戸大橋を経由して四国の県庁所在地を結ぶ場合のB/Cは成り立つというデータが出たんです。ただ、これは今、北海道まで届きました。九州も鹿児島まで開通しました。じゃあ、次どうするのっていったときに、四国だけじゃなくてよそも動いていますから、例えば今、北陸新幹線が石川まで行ったけどそこから京都へ行くとか、こういうニーズなんですね。九州の場合は、どっちだろう。西ができたので東もやってほしいとか。いろいろな声があって、山陰にも新幹線よこせとか。だから、これは次どこだというのは、どこかやることにはなると思うので、競争になると思います。競争のときには地域の熱意と事業として成り立つのかどうかということの根拠が今与えられたということで、返済計画というのも単年度に置き換えると無理のない財源配分ができそうだということで、四国全体が一致して誘致に入ってきている状況です。ただ、これも事業の進捗を考えるとすぐというわけにはいかないの、次の計画の中で四国を考えてほしいということに持っていくための作業を今やっているところです。

もともと昔、香川県に架かっている瀬戸大橋をつくった時代に四国に新幹線を引っ張るということは前提とした橋がつくられたんですね。実は児島一坂出を結んでいる瀬戸大橋は今、普通の鉄道が走っていますが、新幹線規格になっています。ですから、中国地方から四国まではレールさえ敷けば新幹線を四国まで持ってくるというのは技術的にはたやすいです。ただ、こちら側はまた別に工事が必要ですね。というのは、日本の鉄道ってちょっと特殊で、普通の在来線というのは線路の幅が狭いです。新幹線は国際仕様で線路が広いです。標準軌と言っています。在来線よりも広い軌道です。その付け替えをするのか、あるいは東北のように両方併用するタイプにするのか。もう1個考えたのがフリーゲイジといって新幹線のときは広く、機械で狭めてどっちも乗り入れるようなことをやろうというので研究したけど、これはもう無理だということが先月はっきりしたところです。やるとするなら、新幹線しかないということで、ある意味で結論付けられたと思うので、これは愛媛県単独の話ではないので、四国一体となって誘致は続けていきたいと思っています。

もう1点言うと、実はこれは経営のあり方もそうなるんだけど、昔、日本の今のJRというのは全国1社だったんです。日本国有鉄道。国鉄という会社で北海道から九州まで1つの会社がやっていたんですね。ところが、当時の国の判断で民営化をしろと。国の鉄道会社から民営化しました。株式会社になったんです。そのときにさらに地域ごとに分割しようということで、北海道と東日本と東海と西日本と九州と四国に1つの会社が分割されたんです。問題は、東日本、西日本、東海は人口が多いからもうかっています。しかも新幹線がある。九州が新幹線が通ったことで1つの収入源が生まれたので成り立ち始めました。

問題は四国と北海道です。北海道と四国は新幹線がない。北海道は行くことは行ったけど、北海道全域には行っていませんから。走らないと収入源がないです。だから、正直言うと、このまま将来、JR四国が存続するためには新幹線事業というのを得て柱をつくるか、あるいはJRのほかの会社と合併するか。それしかないと思うんです。それほど新幹線というのは鉄道の存続にも関わる大きな問題になってくるということは我々は受け止めて事業を考えていきたいと思っています。

## 7. 犬の国体の開催及び動物愛護センターでの殺処分ゼロについて

去年2017年、えひめ国体が愛媛で開催され、“みきゃん”の知名度が上がったのではないかとみきゃんはみかんと愛媛を掛け合わせたキャラクターなので、犬の国体をしてはどうか。

私自身、動物が好きで犬も好きで、また、7月の西日本豪雨で被災された方々にも動物と触れ合って心を癒やしてほしい。日本経済新聞によると、えひめ国体では、82万人により661億

円の経済効果があった。そこで、この犬の国体を開催すると、自分の考えでは、恐らく 30 万人ほどが来て、200 から 300 億円ほどの経済効果があるのではないかと思う。

競技内容としては、ドッグランなどの競う競技や毛並みのよさなどを判断するようなコンテストがいいと思う。そして犬の国体の延長線として、スタンプラリー形式のようなものでさまざまな観光地を回り、その観光地でも経済を盛り上げていけるようなことを考えた。

さらに、石手川から玉川に向かう地点に愛護センターがあるが、そこで殺処分されてしまう犬などをゼロにしたいと思い、同じように、譲渡会などもイベントとしてやったらいいのではないかと考えた。

課題はいろいろあるかと思うが、犬の国体をお勧めする。

## 【知事】

そういう話が出ると、きっと猫の国体はどうですかって話が出る。

まず、全国クラスの大会をやるということになると、愛媛県ローカルが1つずつ1から積み上げて中身を考えていくというのはちょっとこれはハードルが高いと。となると、すでに今、例えば日本犬の保存協会とかなんかあるでしょ。犬の協会とかある。そこで品種のコンテストとかやっているということは聞いたことがあるので、全国協会のレベルですでにそういう全国を回るような大会があるのかどうか。もしあるならば、それを誘致して。そしたらノウハウがあるわけだから。で、愛媛らしいバージョンに仕立て上げていくというふうなことが一番現実性が高いのではないかなと思いますので、ぜひそれを調べてほしい。

セラピーの世界で動物の触れ合いなんかも非常に効果があるということで、一生懸命やられている方もいらっしゃるし。生き物との触れ合いというのは、最近特に求めている人が多いのかなと思う。例えば東京とか大阪とか、ああいう大都会に行っても、最近は猫カフェとか、すごい増えているので。なんで猫カフェがはやっているのって聞いたら、触れるから、触れられるからって言うんですね。

動物園、愛媛県もとべ動物園があるけど、触れ合いコーナーがとべ動物園もあるんだけど。どこだったかな。どこの動物園だったか大人気のところがあって、とべ動物園も人気ランキングでいうと全国で5番手ぐらい、結構高い。中四国では一番いい、というかすごいから。ちなみに夏休みはナイト ZOO をやっているの、ぜひ高校時代のよき思い出にしてほしいなと思うんだけど。その人気のある動物園で何をやったかというカピバラ。カピバラをある時間になると外に出して、すごいなれているカピバラでゴロンと寝っ転がってお腹出してくる。それをみんなが触って、それが全国ニュースで流れて大人気になったというので、それを見てすぐとべ動物園に行って、うちのカピバラもあれやれるようにしてくれと言ったら、性格的に無理だということが分かって、個体によってできるできないがあるらしい。

ただ、そういう動物との触れ合いというのは人を癒やす大きな力を持っているのは間違いないので、ぜひそういう全国大会の存在があって、それを開催したらどうかということをいつでもメールとかで提案できる制度があるので、具体的な根拠を持った提案をしてもらえるとありがたいなと思います。

あと、もう1つ。さっきの愛護センターについて、本当に残念ながら、引っ越しで放置自転車、ごみ、ペット、無責任に放置する人が後を絶たないんですね。飼っていても避妊・去勢手術しないで猫なんか特にどんどん増えてしまうので、そういう状況を放置している飼い主もいる。それが大きな原因になっているんだけど。愛護センターもいろいろなNPO団体と組みながら新しい飼い主探しも常にやっているの。それでもどうしようもないという。例えば、殺処分ゼロにすると、しわ寄せはどこかに来るんです。他県に持っていつている可能性も出てくるし。そこでは根本的な解決にならないので、やっぱり根っこのところを解決していかないとかなかなかゼロ



まで持っていけないなというのが実態ではないかと思います。努力していきます。

## 8. 音楽フェスティバル(野外コンサート)の開催について

愛媛県は昨年のえひめ国体や愛媛マラソンをはじめ多くのスポーツで盛り上がっていて、愛媛県民のスポーツへの関心が高まるだけではなく、大きな経済効果を上げていると聞き、知事のお考えである“スポーツ立県えひめ”が確実に実現していて素晴らしいと思う。

私は、さらに愛媛県を盛り上げるために音楽フェスの開催を提案する。

それは、隣の香川県などで行われているような2日間にわたり数万人が集まる野外コンサートで、愛媛県に誘致することで他県からも多くの人を訪れ経済効果も上がると思う。会場には地域活性化も踏まえ、県内各地にある野球場で行ったり、夏場使われていないスキー場を利用したりするのがいいのではないかと。可能であれば四国カルストなどの愛媛県ならではの広大な場所で行うことができればよりよいものになるのではないかと思う。

音楽の面でもおもてなし県愛媛として宣伝できるイベントになるのではないかと。知事のお考えをお聞かせいただきたい。

### 【知事】

昔はあったんだよね。“a-nation”が毎年砥部の運動公園で行われていて、僕は松山市のときだったんだけど、a-nationの本社まで行ってエイベックスの副社長に直談判して、砥部で。あのころの時代だからみんな知らないかもしれないけど、浜崎あゆみとかBOAとか安室奈美恵ちゃんとか、一堂に来ていたわけ。数万人のコンサートを毎年やっていた。で、トップレベルは難しいけど、2番手、3番手ぐらいの子たち、1、2曲歌って帰っていくのが見えたので、3番手ぐらいの子たちをこっちに集めて、松山のお堀の公園で翌日別途やってくれないかと言ったらOKが出て、そのときは誰が出たかな。鈴木亜美ちゃんとか、MayJ.とか、あのあたりがこっちに来てくれて、こっちは無料でやってくれた。ジョイントで2年続けてやったんだけど、副社長がアメリカ行っちゃっていなくなって、その後、僕も県のほうに移っちゃったので、その後どうなっているか分からないんだけど、やりようによってはいいアイデア。

あとは、例えば県独自というわけにはなかなかいかないで、例えば今日マスコミの皆さん来ているけども、意外とマスコミの皆さんが何かの記念にこういった仕掛けをやるので県と一緒にやりませんかという。多分、高松も誰かが仕掛けて県が協賛をやっているというパターンだと思うので、そういうアグレッシブなところが出てくるとありがたいんだけど。それが出てきたらやれるところについては協力したいなと思います。

音楽というのは人を引きつけるパワーを持っていると思うので。芸術、スポーツは同じように人を引きつけるパワーは持っていると思います。

### (参加者)

ありがとうございます。

### 【知事】

あ、そうだ、あのときもう1ついた。まだ売れていないころのAAA。市役所の職員に誰が来るのって言ったら「スリーエーが来ます。」って。それ誰やって思ったら、それトリプルエーじゃないのって。そんな時代だった。

## 9. 外国人観光客の愛媛への誘致方法等について

今、オリンピックに向けて外国人観光客を誘致しようといろいろな自治体が出ており、愛媛県も韓国と定期便を結んだりして、愛媛に多くの観光客が来るようにしている。海外の観光客は、直接愛媛に来ることもあるが、まず東京に来る。そこから地方都市である大阪、奈良、

京都、広島までは行くが、そこから愛媛県に来る観光客がそこまで多くないと思うので、まず、一番近い広島、そこから愛媛に気軽に来れるようにしたらいいと思う。

広島から愛媛に来るにはしまなみ海道かフェリーか瀬戸大橋を使うしかない。外国人の人は多くはJRを使うと思うが、そのJRがしまなみ海道は通らずに瀬戸大橋から行くのでちょっと遠回りになってしまい、あまりコネクションがない。フェリーを頻繁に使えるようになったら松山に来る人がふえるし、観光港というのも松山にあるので、ちゃんと機能が果たせるようになるのではないかと思う。そのことについて、何か対策をすることはできるか。

## 【知事】

そうですね。海外の観光客については年々ふえている状況なんですけど、もちろん海外からの知名度といったら、外国人の方から見たら東京、京都、大阪、福岡、札幌。それがゴールデンルートと呼ばれる主要なところで、広島なんかは国際空港として人口が多いですから。あとはその他大勢なんです。四国なんてそれぞれの知名度がなかなか外国人に届けられるわけではないので、その点では難しい課題を地理的に抱えている中でやっていかなければならないと。

そこで、最初考えたのがまず海外の直行便をどうするかという戦略と海外便は成田に着くのが多いので、成田と松山を結ぶLCC。ローコストキャリアをなんとか引っ張って来れないかということで、ここ数年で成田-松山便、関西空港-松山便、去年の11月からソウル-松山。今、チャーター便でどんどん実績上げて、定期便を目指しているのが台北-松山。中国の上海-松山という状況になっています。正直言って、お金さえ出せば路線は開設できます。赤字は補てんしますと言えば、どこの会社でも飛んでくれます。実際それをやっている地方もあります。でも、それをやってしまうと要は相手からすればおいしいわけです。飛ばせば赤字が出ても全部日本のお金で全部補てんしてくれるんだったらこんなおいしいビジネスはないと。その代わり出さなかったらすぐ止めますよという、こういう関係になってしまう。これはビジネスではないということで、やっぱりWin-Winな関係になることを前提にやれる会社を模索していきました。

例えば、今回のソウルと松山を結ぶエアラインというのは、LCCに特化した会社でもかかデジタルマーケティングを駆使してAIも活用しながらプロモーション活動やっていますね。今、搭乗率90%超えています。ほとんど向こうからのインバウンドで、今韓国からすごい来始めていますけども。みんなにもぜひ活用してもらいたいの、実はこれからの時代は国際化がもっと進展するので、できるだけ多感な青年期に異国、異文化、異言語、異なる慣習を経験したほうがいいと思うので。ただ、行くのにお金がかかるという壁も、ハードルもあったのでLCCにこだわったんだけど。

実は今、ソウル-松山便というのは、ネットでLCCは1席埋まるごとに値段が上がっていく。分かる？189席あって、1席目はめちゃめちゃ安くて、2席目から徐々に上がっていくという、そういう料金体系になっているんだけど。今、ソウル-松山の1席目取ったら、ソウル-松山が特別運賃で往復4,000円からです。最初にネットで入会するといきなりクーポン券が送られてくるから、1,000円のクーポン券なので、一発目に1席目を取ったら往復3,000円でソウルに行けちゃう。

ものすごいハードルが低くなっているし、それからさっきの情報が届いていないということもあるかもしれないけれども、今年の4月から若者限定。30歳以下だけ？

## （事務局）

29歳以下。18歳から29歳以下。

## 【知事】

18歳から29歳以下。

18か。高校生対象じゃないんだ。ほんとに。

## (事務局)

18 から。

### 【知事】

ごめん。ちょっと検討してみよう。

若者対象に松山出発の国際便を使って初めてパスポートをつくった場合、助成制度を立ち上げていて、それとLCCに乗って気軽に行ける料金体系の就航でぜひ皆さんにも積極的に経験をしてもらいたいなと思っています。

世界の動きはものすごい日々速くなっているし。これはプレッシャーかかっちゃうけども、君たちの時代というのはアジアの成長を求める同じ世代と競争していかなくちゃいけない。今、日本人、冒頭で話したように1億2,000万人いる。今、日本人の平均年齢というのは、1億2,000万人のざっとした平均年齢が47歳なんです。例えばインドネシア。インドネシアは2億6,000万人で平均年齢が30歳。ベトナムが9,000万人で平均年齢が31歳。フィリピンが平均年齢が24歳。完全なピラミッド型の人口構成。かつての日本がそうだった。そこが日本に追いつけ、追いつけとグアアッと今来ているから、そこと競争していく、共存・競争していく時代が次の世代だと思うので、国際化の波というのはもっともっとインターネットも普及し、国境がどんどん低くなっているから、我々が生きてきた時代とは違った風景になってくるのではないかなと思うので、ぜひ視野を広げてもらいたいなと思います。

そういう中で先ほど申し上げた上海便、台北便も布石を打ちながら、それから今言ったような広島との連携も大事だと思っています。だから飛行機の路線考えても、こっちが全然できていない。広島は大都市であるので、例えば広島IN、瀬戸大橋渡って松山OUTという、こういう商品構成もできるようになると思うし、それから今、港の改修も行っていて来年から超大型の豪華客船が松山に入ってくるように今2社のクルーズ会社と交渉していますので。1社は日本のクルーズ会社。これは確定。もう1社は台湾の会社でこれは今交渉中。いろいろな港を使った観光客誘致にも今、手を入れているところです。ただ、豪華客船の場合は、宿泊は船の中になってしまっただけで宿泊費は落ちないという欠点があります。

### 《補足説明》〔経済労働部〕

松山空港利用促進協議会（事務局：愛媛県国際交流課）では、県内在住の若年層（18歳から29歳まで）の方を対象に、松山空港国際定期便を使って初めて海外旅行する場合、旅行代金が5,000円引きとなる「初めての海外旅行応援キャンペーン」を実施し、若い方々のパスポートの取得を後押しして参りました。

松山-ソウル線が増便となったことなどを機に、平成30年11月からキャンペーンの対象者を小学生以上の方に拡大するとともに、松山空港発着の国際チャーター便も対象としましたので、高校生や大学生などパスポートをまだお持ちでない方には、家族旅行や卒業旅行などで是非ご活用下さい。

## 10. 環境問題を意識するための県の取組みについて

松山市は環境モデル都市に選定されているが、ごみの排出量が全国でも少ないこと以外、どのような点がほかより優れているのかあまり知られていないと思う。猛暑や豪雨などが問題になる中で、松山市の人はもちろん、愛媛県全土で環境問題を意識するための取組みがあれば教えていただきたい。

### 【知事】

そうですね。パンフレットあるんだっけ。

去年から楽しく環境問題に参加しようという“クールチョイス”という事業をしているんだけど、例えばこれはある目的に向かって日々の生活を努力して、ポイントをためていくと県産品とか家電製品がプレゼントされるという。楽しみながら。

何をするかという、ほんとにたわいもない、誰でもやろうと思ったらできることばかりで、CO2削減の生活追求。これはエコ診断というのを受けてもらって、8月、9月および冬にエコ診断でどのくらいのCO2削減の努力をする目標を持ってくださいと言って、それを記録してもらって達成するとポイントが加算されて。例えば、省エネ家電を購入するときに10%割引してもらえようになっている。それからお風呂。松山って結構いろいろなところに温泉あるでしょ。道後温泉だけじゃなくて地域ごとにいろいろある。銭湯も含めてね。お風呂って毎日毎日各家庭でお湯を沸かしているとCO2をどんどん排出することになるので、定期的にぜひ家族みんなで温泉とか銭湯に行ってもらって、これだけでもCO2削減になるので、これもポイントの対象にしようということで。ほとんど松山市内の温泉施設、銭湯、今73施設がポイント制度に参加してくれる施設になっているので、そこも使ってくれるといろいろなプレゼントがある。それから、もう1つはさっきの自転車通勤の奨励ということで、これはツーキニストというクラブ。事業所単位で発足してもらって、自動車通勤から自転車に切り替えてほしいという促進を事業所単位でやっています。

最後にもう1つが食品ロス。食べ残しをなくそうというキャンペーンで、「愛媛のおいしい食べ物を適量注文して残さず食べきる」こと等を啓発しています。そういうみんなでやれることをしていただきます。できそうなことばかりですよ。ぜひ、やってください。

## 11. 小・中・高校生のものづくりの技術やアイデアを形にできる仕組みづくりについて

私たちは毎日、ものづくりの技術を学び、将来県内でもものづくりの職業に就職し、地域に貢献したいと考えている。愛媛県はものづくり企業、スゴ技企業データベースなど、県内のものづくり企業のアピールに力を入れておられると聞いている。

そこで、地域を担う技術者を目指すため、提案がある。小・中・高校生が企業や大学の協力を得て、ものづくりの技術やアイデアを実現できるものづくり夢工房というような施設があればいいと思う。その施設は、大きな工場の中に二足歩行ロボット、太陽光発電、宇宙ステーションの開発など、最先端技術の研究ができ、アイデアをすぐ形にすることができる施設である。また、このような施設があれば、ものづくりを身近に感じることができ、地域のものづくりも活性化し、若者が地域に残るのではないかと考える。

### 【知事】

まず1つは、愛媛県にはすでに産業技術研究所という施設があって、ここは実は企業と主に大学が愛媛県と三者共同でいろいろな研究をする体制が出来上がっています。産業技術研究所というのは産業全般になります。そのほかに業種に特化した施設が、例えば今治には繊維産業技術センター。これは今治タオルや縫製関係の技術追求の研究所。ここも企業あるいは学校と一緒に入ってやってくれています。それから四国中央市には紙の研究所があって、ここは同じ県の施設の中に大学院も設置されて、そこに民間企業がどんどん入って、最先端の研究になっています。

例えば、紙というと、今はセルロースナノファイバーという新たな素材の研究に入っているんだけど、これまでいろいろなものづくり、機械なんかで使う素材は鉄がメインだと思うんだけど、今それがカーボンにかわってきた。カーボンは実は愛媛県の松前町に日本最大のカーボン工場があるんですね。愛媛県でつくられているカーボンが世界を飛んでいる。ボーイング787というジェット機に使われている素材は愛媛県で生産しています。これから自動車にも活用されていくでしょう。カーボンは鉄よりも強く、鉄よりも軽いという特性があります。セルロースナ

ノファイバーは紙の元ですから木ですよ。木材チップからどんどん生まれていくんだけど、これは素材としてはカーボンよりちょっと弱い鉄よりは強い。鉄よりは強くカーボンよりちょっと弱いくらいだけでも、カーボンより軽いという素材ができることが分かってきたんです。

紙からこういう素材が生まれてきて、何に活用するかというのはこれからの研究。しかも、愛媛県には鉄の加工であるとか、アルミの加工であるとか、最先端の技術を持った中小企業がたくさんあるので、それを例えばカーボンとかセルロースナノファイバーに生かせないかどうかというのもこういった研究所で民間と大学と愛媛県が一緒になって研究を積み重ねています。だからそこを高校のところまで絡めていけば、割と問題は早く実現するのではないかなと今の話を聞いていて思いました。

もう1つは、今、民間企業は人材を欲していますから、学校が積極的に最先端の技術を持っている企業と、これは教育委員会がやればいいんだけど、そういうところと連携をする体制をもう少し強く持ってもいいのではないかなと思う。ちょっとこれは宿題として持ち帰らせてもらいたいと思います。

いずれにしても愛媛県内にはものづくりの最先端技術を持った会社がたくさんあって、多分「スゴ技」データベースを見てくれたと思うんだけど、名も知れぬ愛媛県の中小企業の中に例えば宇宙ステーションの「はやぶさ」の部品をつくっている会社が3社あるし。世界の建設機械のコンボの減速機という歯車。減速機の世界シェアの3割を持っている会社が新居浜にあったり。あるいは東京スカイツリーのサッシを請け負って全部つくった会社が四国中央市にあったり。ともかくエンド製品をつくっていないから会社の名前は知られていないけど、業界ではその技術はすごいと認められている会社がたくさんあるので、工業高校でせっかく専門的に学ぶのであれば、県内に世界と十分に戦っているものづくりの企業がたくさんあるので、自分の欲した将来を描けるような会社を県内で見つけてほしいと思います。よろしく。

#### 《補足説明》〔教育委員会〕

工業科設置校6校では、地域産業スペシャリスト育成事業において、企業技術者等を学校に招へいし、実践的な技能を学ぶ「匠の技教室」や、地元企業と連携したものづくり研究開発等を実施し、地元企業で活躍するプロフェッショナル人材の育成を図っているところです。

## 12. 県での女性のIターン、Uターン対策について

私が在籍している松山東雲中学・高等学校は県内唯一の女子高となった。今、女性が活躍する場が増えてきたが、愛媛では女性のIターン、Uターンについて何か対策をしているのか。

#### 【知事】

そうですね。女性に限らず、さっき言った人口対策としてUターン、Iターンというのは男女問わず力を入れてやっているところなんですけれども。

さっき触れなかったんですけども、人口減少というのを1つのエリアで考えたときに、対策はまず1つ目は出生率を上げていくというのがさっき言ったことですね。もう1つは人口の流出。出ていく人をどう食い止めるか。もう1つは人口の流入。入ってくる人をどう増やすか。この3つからアプローチする必要があると思います。

今のお話というのは、まさに人口の流入を促進するIターン、Uターンをどう展開していくかということだと思います。これは男性、女性関係なくいろいろな手立てを打っています。例えば、3年前から始めたのは、愛媛出身で大学は県外に行ってしまった。そろそろ就職かなというときに、ちょっと選択肢に愛媛を考えてよということ、1回ふるさとに帰って来たらどうと。帰ってくるときに、この日に帰ってきてよと。この期間のときに。そのときにうちのほうで、今言っ

たように素晴らしい企業がたくさんあるので、会社説明会をセットしておく。今、60社、70社が集まってくれるけれども。会社説明会をブースつくってセットしてくれる。それに参加してくれたら、ちょっとせこいんだけど片道の交通費だけ支給するという。そういうことで呼び掛けたら、結構ドツと帰って来てくれたりするケースがあります。

それからさっきの1次産業のケースがある。これについては、例えば、これは愛媛出身者だけでなくいいんだけど、愛媛に移り住みたい、移住したいというところについては、東京に専門の相談員を配置しています。そこで住居のこと、生活のこと、職業のこと、いろいろなアドバイスを一括でできるようにコンシェルジュとしてサポートする仕組みをつくっています。それをつくって市町と連携した受入体制をつくったので、年間200人から300人ぐらいしかいなかったのが、去年1,000人いたということにつながったんだけど。例えば、農業やりたい場合は、これは対象が子育て世代に限定するんだけど、古民家を使って住まいを設けたい場合は、改修費にこれだけの補助制度をつくりますとかメリットがあるんですね。農業が初めてで何にも分からないときは、最初の3年だったかな、そういう制度があって勉強する期間、指導する期間、その間の収入をサポートするという制度をつくってありますから、いろいろな仕掛けをつくって、それを一体的に見れるように去年からインターネット上に新しいサイトを立ち上げました。まだ発展段階なんだけど“あのこの愛媛”というサイトです。

ここには愛媛県の市町ごとに地図が出てきて、クリックするとこのエリアにはどんな求人募集がありますよ、雇用条件はこうですよとか全部出てくる。情報化の時代にこれを使って就職マッチングをしようという。そこに今度住居情報を載せて一体的に受入体制がワンショットサービスで提供できるサイトに成長させていくのを目的としているんですけど。これもまたさっき言ったようにビッグデータが蓄積されていくので、そのデータを活用してさらにマッチング精度を上げるというようなことを視野に入れて。これは愛媛だけでやっているんじゃないで、国と全国で一番大きな東京にある人材あっせん会社っていうのかな、と愛媛県と、地元の銀行と4者共同で立ち上げたサイトなんだけど。実は今、全国でここだけなんです、やっているの。国のモデル事業として去年立ち上げて、ここがうまくいったら全国に広げたいという国の思惑もあるようなので、ぜひ成功させたいなと思っています。

人によって、どこを選ぶ、どこに行きたいか、どういうことをやりたいかは違うのでいろいろなニーズに応えられるようなメニューをそろえて、そのサポートをしっかりできるような体制を取ることが大事だと思っています。

ただ、普通に考えると愛媛県ってとても住みやすいところです。1回外出たらそれは分かると思う。僕も外が長かったんだけど。僕は20代のときは海の向こうに行きたいという夢があったので商社に勤めて、20代のときは世界の20数カ国点々としていたんだけど、やっぱり日本はいいなと。かつ愛媛はいいなと。本当に今思っています。データの的にもすごく住みやすいです。今回はたまたま災害があったけど、他の地域と比較すれば災害は少ない。かつ通勤時間が日本の都市の中で最も短い。余暇時間が日本の都市の中で2番目に長い。海の幸、里の幸、山の幸に恵まれている。家賃が日本の県庁所在地の中で一番安い。物価は日本の県庁所在地の中で3番目に安いとか。考えてみるとすごく暮らしやすいデータが豊富なんです。空港から街中の距離感は福岡空港と並んで松山空港が全国で最も近い場所ということは、よそへ行くときもアクセスが非常に便利であるとか。そういうデータ的に見ても本当に住みやすいところなので、いったんもし外へ出ることがあっても、必ず帰ってきてください。

### 13. 「知事とみんなの愛顔でトーク」を大規模なホールや学校で開催することについて

今日の活動を通して、本当にたくさんを知ることができた。愛媛県の活動について強く興味がわき、これから調べていこうと思ったし、毎朝新聞を読もうとも思った。それから、ここにいる僕も入れて12人、ほかの学校の高校生の人たちがこんなに魅力的な面白い意見を持っていて、こういうふうな思いを持って生活しているんだなと同じ高校生としてとても刺激を受けた。でもそれと同時に、この素晴らしい体験、満足感、充実した実感がこうした小さい場、12人と後ろにいる数十人の傍聴者の中だけで終わってしまうのはとてももったいないと思った。

そこで、この「知事とみんなの愛顔でトーク」こういった活動を次回から大規模でできないかなというのが提言である。僕たち高校生にとって損になることはないだろうし、もっと愛媛県のことを好きになれるようなそんな企画だと思う。こういった会以上に愛媛県について知れる場所はないだろうと強く感じた。知事と一緒に座っておられる皆さんもスケジュールが大変だろうし、場所も募集の仕方も今から始めるとなるとなかなか難しいものもあると思うが、どうかもっと大規模で、例えば、ひめぎんホールとか、市民会館とか、そういったホールでできればもっと楽しいのではないか。ほかにもどこかの学校で開催するとか、そんなことが実現できればうちの学校としては本当にうれしいし、高校生としては本当にありがたいと思う。

#### 【知事】

行政が主体となるとこういう形が限界かなというところもあるので、例えば、こういう仲間が生まれて、松山市内でも愛媛県でも中予でもいいんだけど、高校生有志でネットワークつくって実行委員会かなにか立ち上げて企画して、そうしたら教育委員会がこういうのは自主的でもいいねって言って事業のサポート、費用面でもしてくれるんじゃないかな。大いにけっこうなので、そんな実行委員会が自発的に生まれてきたら大いに協力します。

#### （参加者）

ありがとうございます。考えてみます。

### 14. 高校野球県大会の応援について

先日、高校野球県大会が終わりこれから甲子園があるが、野球部に入っていて思うことがある。坊っちゃんスタジアムとか各球場で、打者が打席に入っているときやピッチャーが投球動作に入ったときに応援を止めないといけない。

高野連のサイトを見てルールを確かめても、駄目とは書いているが理由がなくて、今は坊っちゃんの3階席に限って吹奏楽部は打席中でもずっと吹いていいというふうになっていて、伊予高校さんがやられているが、やっぱりほかの高校は全校生徒と上の吹奏楽部と上と下で離れていて、というのは結構実現が難しい。千葉県の習志野高校だったり、吹奏楽部が有名なところを楽しみに観に来ている野球ファンも結構いるので、そういうところをプレー中にも吹けるようにしていただけないか、高野連に一度声かけていただければと思う。

#### 【知事】

これはアドバイスしかできないんだけど、主催が高野連および朝日新聞社だと思うんです。ですよ。夏は朝日新聞社で春は毎日新聞社ということなので、その主催者がどう考えるかによると思うので。

例えば、甲子園なんかは別に打席に入っていようがピッチャーが投球しようが、やってたね。やってるよ。

#### （参加者）

ほかの県でも結構やっているんですけど。

**【知事】**

ほかでも愛媛のように分離している。

**(参加者)**

愛媛以外でも結構。

**【知事】**

ある。

**(参加者)**

いや、打席中でもやっていいという。

**【知事】**

やっていいということよね。で、僕も知らないんだけど、3階に吹奏楽部がいて、下で上から聞こえてくる音楽に合わせてやるの。

**(参加者)**

は、やっていいというふうになっている、と聞きました。

でも、今年度の大会はやっている高校は僕が見た限りはない。

**【知事】**

なかったんだ。誰か知らない。一応、聞いてみて。奇妙だよ。普通に考えてもね。だって、甲子園ではそういう応援の中でプレーするんだから、地方大会でもそれに慣れるというのは個人的にはありだと思うけどな。

**(事務局)**

確かに応援はやめています。まあ、調べてみます。

**《補足説明》〔教育委員会〕**

愛媛県高等学校野球連盟に確認したところ、

「試合中に入るファウルボール（特にライナー性のもの）は大変危険であり、生徒の安全を確保するため、打球に注意を向けさせるよう、応援団規定により、投手が投球動作に入ったら、応援を止めることとしている。

一方、プレー中にも応援ができるよう、100回大会に向けて平成28年度に協議した結果、坊ちゃん球場については、3階席及び外野席であれば打球の衝撃が緩和され、生徒の安全が確保できると判断し、平成29年度の大会から、投球動作中でも応援を認めるよう応援団規定を改定した」

とのことでした。

なお、甲子園球場では、投球動作に入っても応援できますが、打席からアルプス席までの距離が長く、プラスバンドは、内野席とアルプス席の間のフェンスのすぐ横に陣取ることとされており、県内の球場とは異なり、安全性が高くなっています。